

【渡辺雲僊】

（その六）

◆尾崎神社の「釣鐘弁慶」（渡辺雲僊）と

「山姥」（作者不明）の絵馬について

山崎 達夫

○「釣鐘弁慶」の絵馬

厳島神社に奉納された絵馬のなかに【渡辺雲僊】が画いた尾崎神社の絵馬「釣鐘弁慶」の原画とおぼしき絵馬（図1）があり、現在厳島神社の千畳閣に掲げてある。（図2）



図2 千畳閣



図1 「釣鐘を負う弁慶の図」

○「山姥」の絵馬

尾崎神社の絵馬「山姥」（作者不明）の原画とおぼしき絵馬（図3）も厳島神社に奉納されている。この「山姥の図」の絵馬の作者は長沢芦雪であり、寛政9年（1797）三国

この「釣鐘を負う弁慶の図」の絵馬の作者は山野峻峰斎（藤原俊芳）であり、文政9年（1826）寺西主忠が奉納した。

屋栄次郎らによって奉納された。現在、県の重要文化財に指定されている。



図3 「山姥の図」
『厳島平成絵馬鑑』

○絵馬奉納年の比較

尾崎神社に奉納されたこの二枚の絵馬は、厳島神社のものと構図が同じである。つまり模写であると考えられる。しかし絵画の世界では古い時代から絵の上達的手段として広く模写が行なわれてきた。ちなみにウィキペディアにつきのように記載してある。

模写——(も)じゃ reproduce)は、美術において、他者の作品を忠実に再現し、あるいはその作風を写し取ることである。

作者の意図を体感・理解する為の手段、方法。一方ただ単にその作品をそっくりに複製する(copy)手法は「転写」であり、「模写」ではないとされている。

日本画においては古くから修行や絵画の精神性や洋式、技法の伝達などを目的に模写が行われている。また、現在では絵画の保存を目的とした模写も行われており、原画が失われても模写が現存することで絵画の内容が伝わっている例もある。

模写は「上げ写し」や「敷き写し」などの技法で原資料から図像を写し取り、色見本を作成した上で彩色・裏彩色を施して制作される。

最近では、著作権といったものに対する概念や権利に注意をはらうことが求められている。個々のケースによって異なるが、一般的には著作者の死後50年間保護されるようである。しかし古い時代において模写は、現在とは違った感覚で広く行われていたようだ。当時は写真や印刷などの技術が現在ほど身近なものではなく、われわれが模写という言葉から受けるネガティブな印象は、当時の人々にはなかったように思われる。

——「山姥の図」奉納——



図4

「長沢芦雪」により描かれた「山姥の図」の絵馬は、寛政9年(1797)三国屋栄次郎らによって厳島神社に奉納された。尾崎神社に絵馬「山姥」(作者不明)が奉納されたのが文久3年(1863)なので、厳島神社に奉納されてから66年後のことである。(図4)

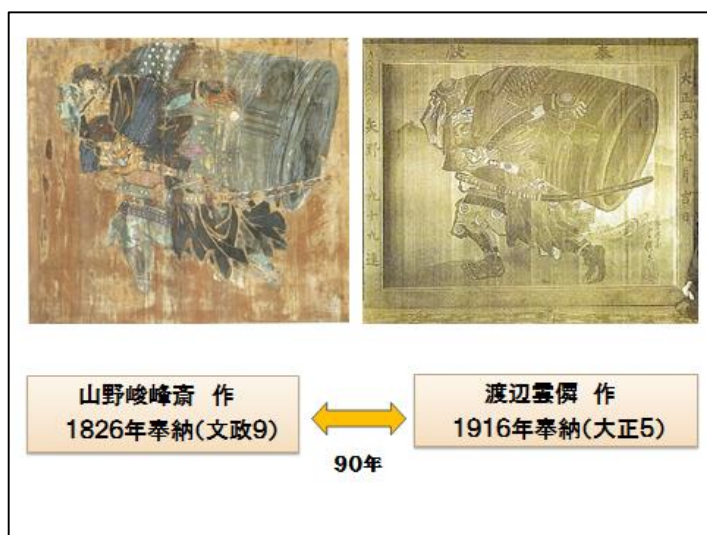


図5

また「長沢芦雪」は、厳島神社に自身が描いた「山姥の図」が奉納されてから2年後の1799年に没している。これらのことを考えあわせると、尾崎神社にある「山姥」の作者は「長沢芦雪」とは推認しがたいようである。

——「釣鐘を負う弁慶の図」奉納——

山野峻峰斎（藤原俊芳）により描かれた「釣鐘を負う弁慶の図」の絵馬は、文政9年（1826）寺西主忠によって厳島神社に奉納された。尾崎神社に「渡辺雲僊」により描かれた絵馬「釣鐘弁慶」が奉納されたのが大正5年（1916）なので、厳島神社に奉納されてから90年後のことである。

（図5）

○まとめ

奉納絵馬の図柄は、依頼者、作者、神社の合意があつて決まると考えられる。特に、依頼者と作者の合意がなければ成立しない。

ここで尾崎神社に「渡辺雲僊」の「釣鐘弁慶」が奉納されたときの状況を考えてみる。当時の尾崎神社には作者不明の「山姥」の絵馬がすでに奉納されていた。厳島神社には、当時から119年前に「長沢芦雪」の「山姥の図」の絵馬が、また90年前には山野峻峰斎（藤原俊芳）の「釣鐘を負う弁慶の図」の絵馬が、それぞれ奉納されていた。（図6）また、当時の人々は厳島神社に行かずして、「厳島絵馬鑑」や「厳島絵馬帳」などにより、模写して紹介されたこれらの絵馬を楽しんでいた。このことから、尾崎神社にある「山姥」、「釣鐘弁慶」の絵馬については、それらの原画がすでに厳島神社

に奉納されているということを、当時の人々は承知していたと思はれる。当時の矢野町の人々が、厳島神社と同じ構図の絵馬を楽しもうとしたのかも知れない。

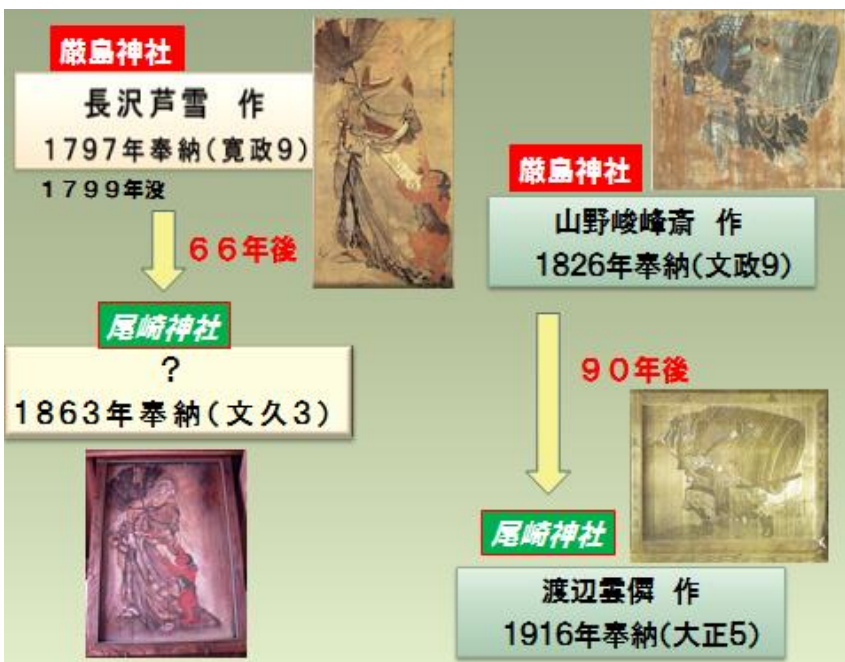


図6

参考—絵馬の違いの気づいた部位を示す。(図7)



図7

○本誌に掲載の場と多くの助言を頂いた楠 精洲会長に感謝します

○参考資料

- ・ 多くの資料の提供を「渡辺雲僊」氏のご親族から受けた
- ・ 『厳島平成絵馬鑑』原田佳子 平成一五年
- ・ 『厳島絵馬鑑』(巻五) 千歳園藤彦 天保三年

○筆者紹介

- ・ 祖父、父ともに昭和三二年まで矢野町砂原で山崎医院開業
- ・ 昭和二五年矢野町砂原で出生 菊水幼稚園第一回卒園